

あいさつは何のためにするの？

鹿本小学校の朝は、明るいあいさつで始まります。6年生があいさつ運動やボランティア活動に取り組みながら、登校してくる子どもたちに明るいあいさつを呼びかけています。鹿本小学校の校訓を子どもたちの姿で表した「あいうえおの学校」の「あ」が、「あいさつが響きわたる学校」です。学校では、明るいあいさつをみんなで呼びかけています。学校では、明るいあいさつが広がっているところです。家庭や地域では、どうでしょうか。昨年度は、学校ではあいさつをがんばっているようですが、地域ではあまりできていないという声もありました。

ある中学校では、職場体験学習に行く前には、必ずあいさつの仕方を学ぶ学習を授業で行い、その上でそれぞれ希望する職場体験を行うそうです。また、1980年ぐらいから就職の面接のために、明るいあいさつを学ぶ教室に講師料を払って参加する大学生もみられるようになったとのこと。

では、あいさつはそもそも、何のためにするのでしょうか？

私は、あいさつは、人と人がなかよくなる（親しくなる）はじまりの言葉だと思います。人と人はあいさつをすることから親しくなり、なかよくなっていくと思います。そのため、あいさつをすることは、友達や仕事・趣味等の仲間が増えることにつながっていくと思います。

各家庭でも、朝の明るいあいさつをかわすことができているかを振り返り、家族でのあいさつをさらにすばらしいものにしていただければと思います。



引き渡し訓練お世話になりました

令和7年5月26日（月）に行いました児童引き渡し訓練におきましては、保護者の皆様にご多用な中、ご協力いただきましてありがとうございました。

今回の訓練では、校舎内の階段の一方通行が周知されていて大変スムーズな引き渡しができていました。ただ、学校内（運動場も含む）での徐行ができていない車が数台ありました。県内の学校では、数年前に、学校の敷地内で、保護者の車が子どもたちと接触する事故が起こっております。引き渡し訓練に限らず、安全第一で学校の敷地内での車の徐行を確実に実施していただきますようお願いいたします。

